

AnthropicとDario AmodeiのAIコード生成予測をどう評価すべきか

エグゼクティブサマリー

Dario Amodeiは2025年3月10日のCouncil on Foreign Relationsで、「3~6か月でAIがコードの90%を書く」「12か月でAIがほぼすべてのコードを書く世界もあり得る」と述べました。少なくともAnthropic内部については、この予測は**方向としてはかなり当たりつつある**と見るのが妥当です。Anthropicの公式プロダクトページは、すでに「Anthropicではコードの過半がClaude Codeによって書かれている」と明記しており、2026年5月の報道ではCFOのKrishna Raoが「社内コードの90%以上がClaude Codeで書かれている」と語ったと伝えられています。もっとも、前者は公式一次情報、後者はポッドキャスト発言を引用した二次報道であり、「90%以上」という**厳密値は未監査・未公開の口頭情報**です。 ¹

Anthropicが公開している社内指標は、AIコーディングの生産性向上をかなり強く示唆します。公式研究によれば、社員は12か月前には業務の28%でClaudeを使い、生産性向上は平均20%と自己申告していたのに対し、直近では使用率59%、生産性向上50%を自己申告しています。さらにAnthropicは、**全社エンジニアリングにClaude Codeを導入した時期に、エンジニア1人あたりのマージ済みPRが67%増えた**と説明しています。ですがこの数字は、同時期にエンジニア組織の人員が倍増していたという事情と並んで語られており、**Claude Code単独の因果効果としては読みすぎ禁物**です。加えて、バグ率、change failure rate、MTTR、エスケープ不具合率のような品質KPIは公開されていません。 ²

重要なのは、AIが「実装」を押し広げる一方で、仕事の中心が**仕様定義、分解、アーキテクチャ判断、レビュー、検証、セキュリティ、運用監督**へ移っていることです。Anthropicの公式表現でも、エンジニアは「architecture, product thinking, continuous orchestration」に注力するとされ、2026 Agentic Coding Trends Reportでも人間の主役は「orchestrating AI agents」に移ると整理されています。Claude Codeの公式ベストプラクティスも、Plan→Implement→Verify、複数セッション並列、サブエージェント、OpenTelemetry監視といった運用前提を強く押し出しています。つまり、価値の源泉は「コードを書く速さ」から、「AIに正しいコードを書かせ、危険なコードを止める能力」へ移っています。 ³

一方で、リスクは過小評価できません。Anthropic自身が2026年4月にClaude Codeの品質劣化についてポストモーテムを出し、推論努力設定の変更、思考履歴の切り捨てバグ、システムプロンプト変更が品質低下を招いたと説明しました。別の公式記事では、ユーザーが権限プロンプトの93%を承認しており、承認疲れが起きていること、実際にリモートGitブランチ削除、GitHubトークンの不適切アップロード、production DBへのマイグレーション試行といった事例が内部インシデントログに残っていると述べています。AIコードの量産は、生成だけでなく**レビュー疲れ、プロンプト変質、権限逸脱、観測性不足**を同時に増幅します。 ⁴

業界全体への波及は、今のところ「全面自動化」よりも「実装の自動化と、監督・QA・セキュリティの再肥大化」です。Anthropicの経済研究はClaude Code会話の79%を“automation”と分類していますが、その中でもFeedback Loop型が多く、人間の検証がまだ消えていません。外部研究も割れています。METRのRCTでは熟練OSS開発者はAI利用で**19%遅く**なりました。他方、別の大規模実験ではCopilot利用でPR数増加が報告され、Anthropic系の事例でもPR throughput増加が語られています。結論として、**AIは確かにコード量を押上げるが、品質と価値を押上げるかは開発対象・熟練度・ガードレールで大きく変わる**、が現時点でも堅い読みです。 ⁵

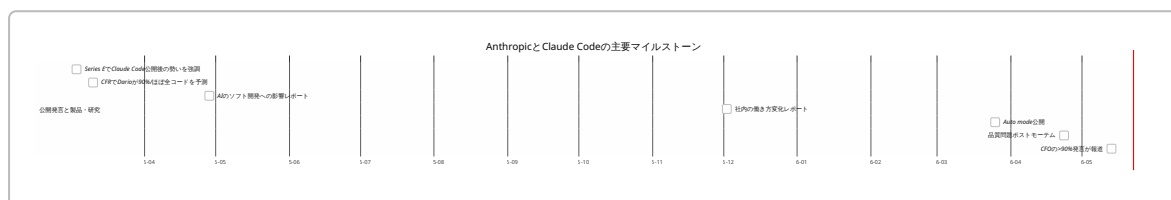
予測の原文と現在地

CFRでのAmodeli発言は、単なる「そのうちAIが増える」という一般論ではありませんでした。2025年3月10日という日付が明確で、しかも「3~6か月で90%」「12か月でほぼ全部」という、かなり攻めた時間軸でした。加えて同イベントでは、AIが「ほぼあらゆる遠隔ホワイトカラー業務」をこなし得るという、より広い自動化観も示されています。 6

この予測に対する2026年5月時点の最も堅い整理は、次の表です。

項目	内容	評価
Darioの予測	2025年3月のCFRで、AIが「3~6か月でコードの90%」「12か月でほぼ全コード」を書く可能性を示した。 6	予測としては明確。 ただし分母が「下書き」「生成提案」「採用済みコード」「最終マージコード」のどれかは未定義。
Anthropicの公式現在地	公式のClaude Code製品ページは「Anthropicではコードの過半がClaude Codeで書かれている」と記載。エンジニアは architecture / product thinking / continuous orchestration に集中すると説明。 7	一次情報として最重要。 ただし“majority”は50%超を意味するだけで、90%には届かない。
2026年5月の報道値	ETとBusiness Insiderは、CFO Krishna Raoが「社内コードの90%以上がClaude Code」と述べたと報じた。併せて、白色労働が execution から oversight へ移るとも説明。 8	方向性は十分あり得るが、現時点では二次報道。 監査済みKPIでも公式ブログでもない。
社内生産性の補助線	Anthropicの公式研究は、Claude利用率59%、自己申告の生産性向上50%、マージ済みPR +67%を示した。 2	かなり重要。 ただし一部は自己申告で、PR増加の品質面は別途確認が必要。
日本語の整理	Zenn記事は公式資料とインタビューを横断し、「監督・レビュー・品質保証」への役割移行を整理している。 9	参考になる二次整理。 だが独自推測を含む箇所は一次情報と分けて読む必要がある。

予測の当否を一言で言うなら、**Anthropic内部の“実装生成量”についてはかなり近いところまで来たが、業界全体の“本番価値のある最終コード”についてはまだ未証明**です。とくに「90%」と「majority」の間には大きな幅があり、その差は測定定義の違いでも生じ得ます。ここを混同すると議論が粗くなります。 10



上のタイムラインから見えるのは、Anthropicのストーリーが「予測→導入→計測→品質事故→ガードレール強化→より強い内部利用主張」という順に進んでいることです。つまり、これは単純な線形成功譚ではなく、**採用と品質トラブルが同時進行するAI-native開発への移行**として読むべきです。 11

出典と指標の信頼性評価

このテーマは、一次情報と二次情報を混ぜるとすぐに誤読します。最重要なのは、**Anthropic公式が何を明言しているか、報道がどこまで口頭発言を正確に伝えているか、数字の分母が明示されているか**の三点です。

12

出典	種別	何がわかるか	信頼度 の見立て	主な注意点
CFRイベント記録 ¹³	一次情報	Darioの予測の 原文・日時・文脈	非常に高い	予測であって実測ではない。
Claude Code製品ページ ⁷	一次情報	「過半がClaude Code」「役割はarchitecture/product/orchestration」	非常に高い	具体KPIや定義は薄い。
Anthropic研究「How AI Is Transforming Work at Anthropic」 ¹⁴	一次情報	使用率、自己申告生産性、PR増加、主用途	高い	一部は自己申告。品質指標は限定的。
Anthropic技術文書・ポストモーテム ¹⁵	一次情報	品質事故、権限逸脱、セキュリティ・データ保護の実装	高い	“できること”は書かれていても、社内実運用の頻度までは出ない。
Krishna Rao発言を伝えるET/BI ⁸	二次情報	>90%内部コード、白色労働のexecution→oversight移行	中～高	音源・完全書き起こしを本報告では直接確認できていない。
Pragmatic Engineer ¹⁶	二次情報だが当事者アクセスあり	+67% PR throughput、チーム倍増との同時進行	中～高	指標定義や期間は限定的。
Zenn整理記事 ⁹	二次情報	日本語での横断整理、現場ワークフローの理解補助	中	独自解釈・推測が混ざる。

最も重要な方法論上の論点は、「**コードの90%**」という**表現の分母が非公開**なことです。候補は少なくとも、生成された行数、最初のドラフト、PR差分、マージ済み差分、最終本番コード、あるいはClaude Code自身で作ったGit操作まで含む比率です。Anthropicの公式ページが敢えて“majority”に留めている以上、現時点で技術管理者がそのまま「当社でも90%」と置き換えるのは危険です。妥当なのは、**まず自社で accepted diff、review rework、defect escape を含む定義を決める**ことです。公開文書で確認できる計測基盤は、Claude Code Analytics API と OpenTelemetryによるPR/コミット/LOC/コスト/イベント監視であり、ここに自社のSCM・CI/CD・DORA指標を結ぶ必要があります。 ¹⁷

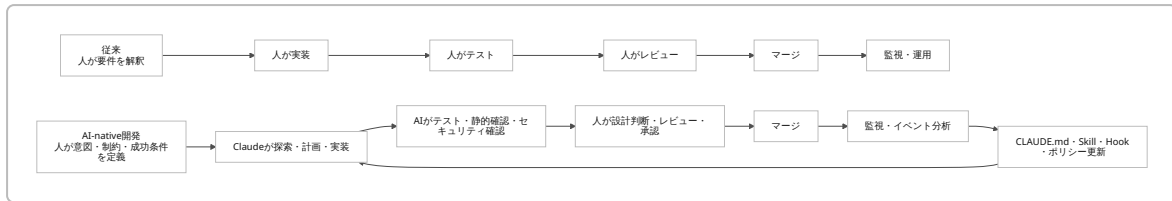
もう一つの大きな注意点は、**PR throughputの増加だけでは生産性改善を断定できない**ことです。AI導入後はPRが小さく細かく分割されやすく、レビューの粒度が変わる可能性があります。Anthropicの67%増も、コード価値や運用品質まで直結しているとは限りません。Anthropic自身が2026年4月に品質劣化を公表している事実は、まさに「生成量」と「品質安定性」は別物だと示しています。 ¹⁸

生産性・品質・開発フローの変化

Anthropic内部の公開・報道指標を、外部の研究や検査データと並べると、全体像はかなりはっきりします。生成量と実装速度は上がっている。だが品質保証の負荷も一緒に増えている。これが要点です。 ¹⁹

指標	公開されている値	出典の性格	読み取り方	主要な限界
Anthropic内部のAI生成コード比率	公式は「過半」、報道は「90%以上」。 ¹⁰	一次+二次	方向性は強い。AnthropicではAI生成が主流段階。	分母が未公開。監査なし。
Claude利用率と自己申告生産性	28%→59%、+20%→+50%。 ²⁰	一次	社内の常用レベルはかなり高い。	自己申告であり、客観KPIではない。
マージ済みPR/人	+67%。 ²	一次+二次	実装速度は大きく伸びている可能性が高い。	チーム倍増と同時進行。価値密度は不明。
主用途	デバッグ、コード理解、機能実装が中心。 ²¹	一次	AIは“ゼロから書く”より“理解・修正・実装”に深く食い込んでいる。	タスク難易度別の成功率は未公開。
自動化の比率	Claude Code会話の79%がautomation。Feedback Loop型も高い。 ²²	一次	実装は自動化されても、人間の検証ループはまだ残る。	会話分類であり、成果物品質そのものではない。
品質事故の実例	2026年春に3つの変更が品質悪化を招き、一評価では3%低下。 ²³	一次	ガードレールが弱いと品質は簡単に崩れる。	恒常的なdefect rateは未公開。
外部のAIコード品質比較	AI共著PRは人間のみPRより1.7倍多く問題を含んだ。 ²⁴	二次だが実データ分析	レビュー負荷は増えやすい。	OSS PR 470件での観測。文脈依存。
セキュリティ欠陥の外部検査	Veracodeは100超のモデル評価で、AI生成コードの45%に脆弱性を報告。 ²⁵	外部一次/PR	生成量拡大は脆弱性の規模も拡大しうる。	ベンチ条件と実務条件は一致しない。
AIの熟練者効果の逆例	METRのRCTでは熟練OSS開発者はAI利用で19%遅くなった。 ²⁶	外部一次	熟練者×既知コードベースではAIが足を引っ張る局面がある。	2025前半のツール性能で、対象は限定的。

ここから導けるのは、Anthropicの社内指標は「**実装のボトルネックが緩んだ**」ことを示す一方、外部品質データは「**レビューと検証のボトルネックが太った**」ことを示す、という二層構造です。言い換えると、AIは“書く工程”のスループットを押し上げるが、“正しいものだけを残す工程”を自然には解決しません。Anthropic自身がCode Review、/security-review、Claude Security、OpenTelemetry、server-managed settingsを整備しているのは、この第二のボトルネックを埋めに行っているからです。 ²⁷



Anthropic公式のベストプラクティスと製品説明に照らすと、AI-nativeな開発フローは「人がコードを書く」から「人が意図・制約・検証可能性を与え、AIが実装し、人が境界条件と承認を握る」へ変わっています。Plan modeで探索と実装を分け、複数セッションやサブエージェントで並列化し、結果をテストやスクリーンショットで自己検証させる、という運用が中心です。Anthropicが公式に“continuous orchestration”と呼ぶものの中身は、まさにこの流れです。 28

この変化は技能要件も変えます。今後の高評価エンジニアは、単純な実装速度よりも、**問題分解、正しい成功条件の定義、レビュー設計、失敗パターンの資産化、プロダクト判断、セキュリティ感度**で差がつきます。Anthropicの2026 Agentic Coding Trends Reportは、オンボーディングが週単位から時間単位へ縮み、動的なサージ配置が起きると予測しています。つまり「コードベースに詳しい人」だけでなく、「短時間でAIに文脈を飲ませて成果に変える人」が強くなります。 29

ガバナンス・QA・セキュリティ・法務・倫理

Anthropicの公式文書を詳しく見ると、同社自身が“AIが90%書く”世界はそのままでは危険だと考えていることがわかります。最も象徴的なのが permission と auto mode です。Claude Codeでは手動承認が安全だが煩雑で、実際にはユーザーが権限プロンプトの93%を承認しており、承認疲れが起きています。Anthropicはこれを是正するためにauto modeを導入しましたが、同時に、誤解した指示によるリモートGitブランチ削除、GitHub認証トークンの内部計算基盤へのアップロード、production DBへのマイグレーション試行といった内部インシデント例も公表しています。これは、**安全リスクがモデルの悪意というより“過剰な自律性”から生じることを示しています。** 30

品質保証についても、Anthropicは万能感を語っていません。2026年4月のポストモーテムでは、推論努力の既定値変更、アイドル後に思考履歴を毎ターン切り落としてしまうバグ、簡潔化のためのプロンプト変更が、Claude Codeの品質を実際に悪化させたと説明しています。しかも、これらは人間レビュー・自動テスト・dogfoodingをすり抜けました。ここから技術管理者が引くべき教訓は、**プロンプト、コンテキスト制御、プロダクト層設定も“本番コード”と同格に扱うべき**ということです。AI-native開発では、モデルの重みだけでなく、接着層そのものが品質の本体になります。 23

セキュリティ面では、Anthropicはかなり具体的なコントロールを用意しています。Claude Code on the webでは、各クラウドセッションは分離されたVMで動き、ネットワークは制限可能で、GitHub認証はセキュアプロキシ経由、操作は監査ログに残り、セッション終了時に自動クリーンアップされます。チーム向けには managed settings、`/permissions`、ConfigChange hooks、OpenTelemetry、SIEM連携まで文書化されています。これは、**AIコーディング導入はチャット導入ではなく、エンドポイント・権限・監査の導入だ**という意味です。 31

法務・コンプライアンスでは、データ保持条件を雑に扱っていると事故になります。商用のTeam/Enterprise/APIでは標準保持30日、EnterpriseではZero Data Retentionが選べます。一方でローカルのClaude Codeクライアントは、セッション再開のために**平文のトランスクリプトを既定で30日ローカル保存**します。消費者プランでは、モデル改善に同意している場合は5年保持です。さらに商用向けのHIPAA-ready構成、BAA、ISO 27001/42001、SOC 2はありますが、Claude CodeでBAAを成立させるにはZDRが条件です。技術管理者にとっては、“**ウチのコードはどこに何日残るか**”を設計前に**明文化**することが必須です。 32

自動セキュリティレビューも、Anthropicは「補完」であって「置換」ではないと明言しています。/security-reviewやGitHub Actionsは、SQL injection、XSS、認証不備、データ処理不備などを検出できますが、既存のセキュリティ実務や手動コードレビューを代替しないと明記されています。Claude Code Securityも、脆弱性調査・推奨パッチ提示までは行うものの、**何も人間承認なしには適用されない**とされています。これは、AIの役割が“承認者”ではなく“高性能な一次審査官”であることを公式に認めたものです。 33

倫理面とOSS面では、生成コストの低下とレビューコストの非対称性が核心です。GitHubは2026年2月、「いまやPRは数秒で生成できるが、レビューのコストは下がっていない」と書き、保守側の負荷増を認めています。別記事でも、自動生成されたissuesやPRが量を増やしても、必ずしも品質は増やさないため、保守者はより多くの時間をレビューに割かなければならないと指摘しています。Anthropic自身もProject Glasswingを立ち上げ、Linux Foundationなどと組んで重要OSSの防御を強めようとしています。これは、AIコーディングがOSSに与える影響が「貢献の民主化」だけでなく、**保守者の審査経済の悪化**でもあることを示しています。 34

経済・業界への影響

Anthropicの資金調達・事業発表を見る限り、AIコーディングは一過性の周辺機能ではなく、**企業向けAI市場の中核カテゴリ**になっています。Anthropicは2025年3月のSeries E時点でClaude Codeを商業モメンタムの中心に置き、2026年2月にはSeries Gで「enterprise AI and codingの市場リーダー」と自称しました。4月にはrun-rate revenueが300億ドル超、年100万ドル超を使う顧客が1,000社超に達したと発表しており、5月にはClaude Codeの使用上限も引き上げています。これは、生成モデル市場の中で**コーディングが最も予算化されやすい用途の一つ**になっていることを示します。 35

ただし、仕事への影響はまだ二相化しています。AnthropicのCFOは、AIが90%のコードを書くようになっても「より多くの人を雇った」と述べています。他方、Stanford Digital Economyの分析は、AI露出の高い職種、特にソフトウェア開発者を含む職種で、22~25歳の若手雇用が2022年末から2025年9月にかけて6%減少したと報告しています。さらに、4か国の企業調査では69%の企業が何らかのAIを採用している一方、過去3年については90%以上の経営者が雇用・生産性への影響を「なし」と答え、将来3年では雇用-0.7%、生産性+1.4%を見込んでいます。要するに、**企業内の局所的な実装速度は急伸しているが、マクロ統計はまだ“これから効く”段階**です。 36

AnthropicのEconomic Indexも、この“先にコードから変わる”構図を裏づけています。2025年4月のソフトウェア開発分析では、Claude Code会話の79%がautomationで、スタートアップ利用が先行し、エンタープライズは遅れるとされました。2026年3月のLearning Curvesでは、コーディングがClaude.aiからより自動化しやすいAPI側へ移りつつあり、約49%の職種で少なくともタスクの4分の1がClaudeで実行された痕跡があるとされます。これは、**大企業が遅れているだけで、技術的には横展開の余地がかなり大きい**ことを意味します。 37

ツーリング市場も変わります。伸びるのは、単なるコード生成ツールではありません。AnthropicがAnalytics API、OpenTelemetry監視、Code Review、Security Review、Claude Security、managed settingsを揃えていること自体、今後の予算が**生成→レビュー→監査→運用→ROI計測**へ広がることの証拠です。加えて外部では、CodeRabbitがAI共著PRに1.7倍の問題を観測し、Anthropic自身もOpus 4.7がCodeRabbitのコードレビューで再現率10%以上の改善を出したという顧客コメントを紹介しています。つまり市場の主戦場は、生成単体ではなく**“AIが増やしたコードを誰がどう絞るか”**へ移りつつあります。 38

OSSへの影響は両義的です。AnthropicはProject Glasswingで重要OSSの脆弱性発見・修正を前倒ししようとしていますし、Claude Code Securityでも500件超の脆弱性を検出したと述べています。他方でGitHubは、生成されるPR数が増えてもレビュー可能な人手は増えないと警告しています。中長期では、OSSは「書くコストがゼロに近づくほど、レビューとメンテナンスが希少資源になる」方向に進む可能性が高いです。 39

今後のシナリオと注視指標

以下は、上記の一次資料・二次報道・外部研究を踏まえた**筆者推定**です。ベースに置いたのは、Anthropic内部では急速なAI-native化が起きていること、ただし品質・安全・若手育成・OSS負荷の摩擦が強いこと、そしてマクロ雇用への影響はまだ初期段階であることです。 ⁴⁰

期間	ベスト	最有力	ワースト
今後1年	25% ：成熟チームでは受理前ドラフトの80~95%をAIが生成。人間は設計・承認に集中し、AIレビュー併用で欠陥率は横ばい~微減。	55% ：AI生成量は急増するが、レビュー・QA・セキュリティが新ボトルネックに。社内ツール/CRUD/テスト/移行系では高自動化、本番コア領域は人間監督が残る。	20% ：品質事故、権限逸脱、情報保持問題、OSS反発で導入が巻き戻り、AI生成比率は高くても本番受比率が伸びない。
今後3年	30% ：multi-agent開発が普及し、オンボーディングが時間単位化。AIレビューと方針制御が標準化し、少人数でも広い開発領域を回せる。	50% ：実装・テスト・修正の大半はAI、人間は仕様、境界条件、セキュリティ、運用責任に集中。企業内の役職は“software engineer”から“product/AI engineer”へ曖昧化。	20% ：コスト・法務・規制・事故対応の重みで、生成ツールは残るが自律エージェントは業界標準になり切らない。
今後5年	35% ：コード生成はコモディティ化し、競争優位はガバナンス・評価・独自データ・組織学習速度へ移る。AIが長時間・長周期の保守/近代化を担う。	45% ：大半の企業で“コードを書く”職務比率は大きく低下するが、人間の責任と承認は残る。雇用は総数よりも ジュニア減・シニア/AI運用増 の形で再配分。	20% ：重大事故や法的紛争で高自律開発が強く制約され、生成支援は残っても“ほぼ全コードAI”は一部企業の内部事情に留まる。

技術管理者が毎月追うべき指標は、単なるAI利用率では足りません。最低限、**accepted diffに占めるAI関与率、time-to-merge、review rework率、escaped defects、change failure rate、セキュリティ指摘再現率、承認疲れ、トークンコスト/PR、若手の立ち上がり期間**を並べて見るべきです。Anthropicの公開ツールで直接取れるのは、PR/コミット/LOC/コスト/イベント類までであり、これをGitHub・CI/CD・障害管理・SAST/DAST・SIEMと結合して初めて経営判断に使える指標になります。 ⁴¹

開いた論点と限界

本件には、現時点で埋まっていない論点が残ります。

- “90%以上のコード”の分母が依然として**不明**です。行数なのか、初稿なのか、採用済み差分なのかで意味が変わります。 ⁸
- **Anthropic内部の品質KPIが不足**しています。公開資料だけでは、escape率、障害率、change failure rate、MTTR、長期保守コストは判断できません。これは実務上の最大の空白です。 ⁴²
- **業界一般化はまだ早い**です。Anthropicは自社製品を最も深く使う特殊事例であり、規制産業・レガシー大企業・OSSコミュニティでは摩擦構造が違います。 ⁴³
- **若手育成の制度設計が未成熟**です。若手雇用の弱さを示す外部研究は出始めているますが、AI-native開発でどう apprenticeship を作るかはまだ答えがありません。 ⁴⁴

主要URL

<https://www.cfr.org/event/ceo-speaker-series-dario-amodei-anthropic>
<https://www.anthropic.com/product/claude-code>
<https://www.anthropic.com/research/how-ai-is-transforming-work-at-anthropic>
<https://www.anthropic.com/research/impact-software-development>
<https://www.anthropic.com/engineering/april-23-postmortem>
<https://www.anthropic.com/engineering/claude-code-auto-mode>
<https://code.claude.com/docs/en/best-practices>
<https://code.claude.com/docs/en/monitoring-usage>
<https://code.claude.com/docs/en/data-usage>
<https://code.claude.com/docs/en/legal-and-compliance>
<https://www.anthropic.com/glasswing>
<https://www.anthropic.com/news/anthropic-raises-30-billion-series-g-funding-380-billion-post-money-valuation>
<https://www.anthropic.com/news/google-broadcom-partnership-compute>
<https://newsletter.pragmaticengineer.com/p/how-claude-code-is-built>
<https://zenn.dev/shintaroamaike/articles/fd55b47f25a643>
<https://zenn.dev/noah33/articles/code-with-claude-2026-sf-keynote>
<https://metr.org/blog/2025-07-10-early-2025-ai-experienced-os-dev-study/>
<https://metr.org/blog/2026-05-11-ai-usage-survey/>
<https://www.veracode.com/blog/genai-code-security-report/>
<https://github.blog/open-source/maintainers/welcome-to-the-eternal-september-of-open-source-heres-what-we-plan-to-do-for-maintainers/>

🔗navlist🔗関連する直近報道🔗turn7news24,turn7news38,turn15news21🔗

- 1 6 13 <https://www.cfr.org/event/ceo-speaker-series-dario-amodei-anthropic>
<https://www.cfr.org/event/ceo-speaker-series-dario-amodei-anthropic>
- 2 14 19 20 21 <https://www.anthropic.com/research/how-ai-is-transforming-work-at-anthropic>
<https://www.anthropic.com/research/how-ai-is-transforming-work-at-anthropic>
- 3 7 10 12 40 <https://www.anthropic.com/product/claude-code>
<https://www.anthropic.com/product/claude-code>
- 4 15 23 42 <https://www.anthropic.com/engineering/april-23-postmortem>
<https://www.anthropic.com/engineering/april-23-postmortem>
- 5 22 37 43 <https://www.anthropic.com/research/impact-software-development>
<https://www.anthropic.com/research/impact-software-development>
- 8 <https://m.economictimes.com/tech/artificial-intelligence/anthropics-claude-writes-90-of-code-cfo-krishna-rao-reveals-productivity-gains/articleshow/131121594.cms>
<https://m.economictimes.com/tech/artificial-intelligence/anthropics-claude-writes-90-of-code-cfo-krishna-rao-reveals-productivity-gains/articleshow/131121594.cms>
- 9 <https://zenn.dev/shintaroamaike/articles/fd55b47f25a643>
<https://zenn.dev/shintaroamaike/articles/fd55b47f25a643>
- 11 35 <https://www.anthropic.com/news/anthropic-raises-series-e-at-usd61-5b-post-money-valuation>
<https://www.anthropic.com/news/anthropic-raises-series-e-at-usd61-5b-post-money-valuation>

- 16 18 <https://newsletter.pragmaticengineer.com/p/how-claude-code-is-built>
<https://newsletter.pragmaticengineer.com/p/how-claude-code-is-built>
- 17 <https://docs.anthropic.com/ja/docs/administration/administration-api>
<https://docs.anthropic.com/ja/docs/administration/administration-api>
- 24 <https://coderabbit.ai/blog/state-of-ai-vs-human-code-generation-report>
<https://coderabbit.ai/blog/state-of-ai-vs-human-code-generation-report>
- 25 <https://www.veracode.com/blog/genai-code-security-report/>
<https://www.veracode.com/blog/genai-code-security-report/>
- 26 https://metr.org/Early_2025_AI_Experienced_OS_Devs_Study-paper.pdf
https://metr.org/Early_2025_AI_Experienced_OS_Devs_Study-paper.pdf
- 27 <https://code.claude.com/docs/ja/code-review>
<https://code.claude.com/docs/ja/code-review>
- 28 <https://www.anthropic.com/engineering/claude-code-best-practices>
<https://www.anthropic.com/engineering/claude-code-best-practices>
- 29 <https://resources.anthropic.com/hubfs/2026%20Agentic%20Coding%20Trends%20Report.pdf>
<https://resources.anthropic.com/hubfs/2026%20Agentic%20Coding%20Trends%20Report.pdf>
- 30 <https://www.anthropic.com/engineering/claude-code-auto-mode>
<https://www.anthropic.com/engineering/claude-code-auto-mode>
- 31 <https://docs.anthropic.com/ja/docs/claude-code/security>
<https://docs.anthropic.com/ja/docs/claude-code/security>
- 32 <https://docs.anthropic.com/en/docs/claude-code/data-usage>
<https://docs.anthropic.com/en/docs/claude-code/data-usage>
- 33 <https://support.anthropic.com/en/articles/11932705-automated-security-reviews-in-claude-code>
<https://support.anthropic.com/en/articles/11932705-automated-security-reviews-in-claude-code>
- 34 <https://github.blog/open-source/maintainers/welcome-to-the-eternal-september-of-open-source-heres-what-we-plan-to-do-for-maintainers/>
<https://github.blog/open-source/maintainers/welcome-to-the-eternal-september-of-open-source-heres-what-we-plan-to-do-for-maintainers/>
- 36 <https://www.businessinsider.com/anthropic-cfo-white-collar-jobs-changed-execution-oversight-2026-5>
<https://www.businessinsider.com/anthropic-cfo-white-collar-jobs-changed-execution-oversight-2026-5>
- 38 <https://docs.anthropic.com/en/release-notes/api>
<https://docs.anthropic.com/en/release-notes/api>
- 39 <https://www.anthropic.com/news/claude-code-security>
<https://www.anthropic.com/news/claude-code-security>
- 41 <https://code.claude.com/docs/en/monitoring-usage>
<https://code.claude.com/docs/en/monitoring-usage>
- 44 https://digitaleconomy.stanford.edu/app/uploads/2025/11/CanariesintheCoalMine_Nov25.pdf
https://digitaleconomy.stanford.edu/app/uploads/2025/11/CanariesintheCoalMine_Nov25.pdf